

2 特定中山間保全整備事業及び農用地総合整備事業

○ 特定中山間保全整備事業等の事業実施完了後の評価

【第1-2-(3)】

要 旨

平成30年度は、1区域(下閉伊北区域)の完了後の評価を実施し、2区域(南富良野区域、美濃東部区域)の完了後の評価に係る調査業務(社会経済情勢の変化等に関する基礎的資料の作成を含む。)を実施した。

(1)-1 完了後の評価

前年度までに、基礎的資料作成を行った1区域について、技術的・専門的な知見を有する者で構成される技術検討会の意見を含む評価結果をとりまとめ、平成30年8月末に公表した。

1. 下閉伊北区域(農用地総合整備事業)

- ①関係市町村 岩手県下閉伊郡岩泉町、田野畑村、普代村
- ②総事業費 182億2,400万円
- ③工 期 平成14年度～平成22年度
- ④事業内容 区画整理92ha、客土6ha、暗渠排水4ha、土層改良13ha
農業用道路15.7km、付帯する用水路1.6km

完了後の評価結果の概要

本事業による区画の整形・拡大等により、機械作業が容易となるとともに、用排水路の整備により、農業用水の安定供給、水路の維持管理の省力化が図られている。団地内では、野菜類の作付が増加しており、酪農が盛んな地域特性を背景に牧草の生産も多く、国産農産物・飼料の安定的な供給に寄与している。

また、農業用道路の整備により、農産物や木材の輸送時間、森林施業地までの移動時間が短縮されているほか、農業用道路は、災害発生時に幹線国道の代替路として利用されるとともに、地域住民の通勤、通学等にも利用されている。

更に、区画整理を行った団地において農業体験が行われており、農業用道路の沿線では、畜産農家による交流会や工事に伴い移植した植物の観察会が開催されるなど、本事業を契機とした都市農村交流の取組が拡大している。



区画整理(明戸団地)



農業用道路(田野畑工区)



農業体験(中島団地)

(1) - 2 技術検討会委員

平成30年度事後評価 技術検討会の委員

氏名	専門分野	所属等
浅野 耕太	環境経済	京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授
飯田 俊彰	農業土木	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
橋本 禪	農村計画	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
早野 由紀子	地域農業	有限会社 早野商店 取締役

(2) - 1 完了後の評価に係る調査

完了後の評価に係る調査

事業による地域の変化を捉えるため、各種計画や営農状況等を関係道県、関係市町村、JA及び農家等へヒアリング調査を行い、整備した農用地や農業用道路の利用状況、効果の発現状況等を把握するため、受益者及び一般の方にアンケート調査を実施した。

整備した農用地の作付状況を把握するため、春と秋の2回作付調査を行い、農業用道路の一般交通の通行量を把握するため、交通量調査(平日、休日の2日間)を実施した。

これらの調査を基に、社会経済情勢の変化等に関する基礎的資料を作成した。

1. 南富良野区域(特定中山間保全整備事業)

- ①関係市町村 北海道空知郡南富良野町
- ②総事業費 24億8,400万円
- ③工期 平成20年度～平成24年度
- ④事業内容 区画整理571ha、暗渠排水5ha、除礫21ha、農業用用水施設27km
林地転換2ha、鳥獣害防止施設96km
森林整備(水源林造成94ha、分収育林173ha)

(本評価は、林業部門(水源林造成、分収育林)を除いた農業部門を対象として行った。)

完了後の状況

- ① 区画整理、暗渠排水、除礫を実施したことにより、区画の整形・拡大等のほ場条件が改善され、大型機械による作業効率が向上し、作業時間の短縮が図られている。また、適時適切な栽培管理が可能となり、主要作物であるにんじん、ばれいしょ等の単収が増加し、にんじん等の産地である本区域の農業生産性の向上に寄与している。
- ② 農業用用水施設の整備により、防除作業に必要な用水が安定的に供給され、ほ場に近接する給水栓から防除機のタンクに直接給水ができるようになり、給水時間と労力が大幅に軽減されている。
- ③ 鳥獣害防止施設は、鳥獣害防止柵を設置したことにより、エゾシカ、ヒグマによる農作物への被害が軽減している。



にんじんの栽培



防除機への給水



鳥獣害防止柵

2. 美濃東部区域(農用地総合整備事業)

- ①関係市町村 岐阜県関市、中津川市、恵那市、郡上市、下呂市、加茂郡白川町、東白川村
- ②総事業費 394億8,700万円
- ③工期 平成10年度～平成24年度
- ④事業内容 区画整理122ha、暗渠排水33ha、客土2ha、農用地造成4ha
農業用道路23km

完了後の状況

- ① 区画整理、暗渠排水、客土を実施したことにより、区画の整形・拡大や用排水路、耕作道が整備され、ほ場条件が改善され、農業用機械による作業効率が向上し、作業時間の短縮が図られている。また、団地内での黒大豆やトマト等の高収益作物の栽培が取り組まれている。
- ② 区画整理では、法面にセンチピードグラスを植生することで草刈り作業が軽減されているほか、耕作道の整備やほ場の緩傾斜化により転倒事故等の軽減や農作業の改善が図られている。
- ③ 農業用道路は、東西方向に横断することにより、市町村・集落間が結ばれ、トマトやなす、茶等の集出荷に利用され輸送時間の短縮が図られている。また、通作等の利便性の向上が図られたことで農事組合法人等による広域的な農地利用集積の推進に寄与している。
さらに、林業関係者にも利用されており、森林管理作業や原木・製材輸送の効率化が図られている。



茶の栽培(宇津尾団地)



トマトの栽培(黒川団地)



農業用道路(5工区)